慶應 SFC 学会　成果報告書

申請者氏名	金井貴佳子	所属・学年	政策･メディア研究科 修士課程 2 年
研究課題名	フィリピンの若者のエンパワメント:Self-Reliant Life Patterns を用いた自立的に生きることの意味の探究		
活動日時	2024 年 2 月 14 日～2024 年 2 月 26 日		
活動地域	フィリピン・ルソン島バギオ市及びミンダナオ島カガヤンデオロ市・ヒンゴオグ市		

目的

本研究の目的は、**フィリピンの人々が目指す自立的に生きるということの意味についてパターン・ランゲージを用いて探究すること**である。申請者はこれまで、フィリピンのミンダナオ島カガヤンデオロ市およびヒンゴオグ市の 2 箇所で 13 名の方にインタビューを行い、フィリピンの若者が自立的に生きていくことを支援する Self-Reliant Life Patterns を作成した。作成されたパターン・ランゲージは、実際にワークショップで活用し、修正を重ねて現段階での最新バージョンとして出来上がった。本研究では、Self-Reliant Life Patterns を活用して、フィリピンの人々にとって「自立的に生きる」とは、どういう状態を指しており、どういう意味なのか探究する。また、フィリピンの人々にとってどういう人生がよいとされているのか、その人生観や価値観についてインタビューを行う。対象は、ルソン島にあるバギオ市の人々とミンダナオ島にあるカガヤンデオロ市およびヒンゴオグ市の人々にパターンを活用した対話型インタビューを行い、フィリピンの人々にとっての「自立的に生きる」ということの意味を明らかにする。現段階では、申請者が自立的であることを Self-Reliant Life Patterns と名付け作成しているものの、より現地に即した現地の人たちの意味や認識に基づいたパターン・ランゲージに修正し、よりよくていくことも意図している。

活動内容

本研究では、昨年度から作成していた Self-Reliant Life Patterns を活用し、フィリピンの人々が目指す自立的に生きるということの意味を明らかにするために、フィリピンのルソン島バギオ市、ミンダナオ島にあるカガヤンデオロ市およびヒンゴオグ市で暮らすフィリピンの人々に対話型インタビューを行った。インタビューでは、さまざまな地域のさまざまな年代の人に、自立的に生きるということの意味や、どのような人生がよい人生だと感じているかなど、インタビューを行った。

成果

フィリピン・ルソン島及びミンダナオ島へ実際にいき、10 代後半から 60 代までの様々な世代のフィリピン人合計 13 名の方にインタビューを行うことができた。これまで 20 代後半から 60 代までの方々にインタビューを行ってきたが、現地の大学生の世代にはインタビューを行ったことがなかった。しかし今回は、カウンターパートの方にお願いをして、大学生の方にもインタビューを行ったところ、どの世代にも共通することはもちろんあったものの、世代によって自立的に生きることの「意味」が異なっているように感じられた。現在、すべてのインタビューの文字起こしを行っているところであり、文字起こしが完了し次第、分析を進めていく。

また、Self-Reliant Life Patterns を用いたインタビューをいくつか行ってみて、パターン・ランゲージ作成でもインタビューした方にとって、それぞれのパターンの意味はパターン名から伝わっていたようだが、今回初めてインタビューを行い、パターン名を聞いた方にとっては、パターン名を聞いただけではそのパターンがどういう意味なのかすぐには把握できなかったり説明が必要だったりして、すっと入っていかない状況だった。そのため、Self-Reliant Life Patterns のパターンのいくつかはパターン名の修正が必要なものがあることもわかった。理解しにくいパターン名について、今後修正していく。

今後の活用

文字起こしを終え、分析を行いフィリピンの人たちが自立的に生きていくということに対してどういう意味があると考えているのか、その考えを反映させより現地に寄り添った Self-Reliant Life Patterns にしていく。必要に応じて、Self-Reliant Life Patterns と今読んでいるものも変えていく可能性もある。また、パターン名は、修正が必要なところもあるため、現地の方々が日々のコミュニケーションで使っていきやすいように現地の方とともに修正を重ねていきたい。そして、2022 年度から度々ワークショップを行っている職業訓練校に通う生徒たちを対象に Self-Reliant Life Patterns を用いてよりよく生きていくための実践の支援や他者とのコミュニケーションの支援を行っていく。

謝辞

本フィールドワークを実施するにあたり、様々な人のお力をお借りしました。まず、現地でのカウンターパートとしてバギオ市では Wryneth san、カガヤンデオロ市とヒンゴオグ市では Ma’am Flong を筆頭に様々な方にお世話になりました。また、インタビューに快く協力してくださった 13 名のフィリピンの方々にも心よりお礼申し上げます。このフィールドワークを行うにあたり、指導教授である井庭先生にも感謝いたします。また、本研究を遂行するにあたり、慶應 SFC 学会のフィールドワークに係る財政的支援のおかげでフィリピンへの渡航とインタビューの実施が実現しました。改めて、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。